



可美翁
解

端
五
種

三

中村俊定文庫
文庫 18
520
1



文

文鴉沙筆勤
効成目具容貌
日見之圖也



息

南里





序



之れ村府始り言は事とて其之の事と記し
 筆とて所長事と記是河をぬれ中 留まら
 初より河を又初より河を今之界を其の中より
 下より流りて河を割りて年流りて 飯島とて
 舟より流りて年流りて年流りて 集の言
 乃をよとて此の初より未生なり 毎生と集
 より過去種より是は縁の用 現世様也
 風雅の衆生志也 乃を完結す
 芭蕉翁古門人曰く世に古門人として其の心
 河をよとて百年の好道にせんとて人を
 御の門人として其の心は必在世の門人と其の心
 乃を 蕉門の心とて其の心とて其の心とて

ぬらぬ道の被恩予余し中乳倍済平活
 ののこりたる後あり是れをさう口受を
 訂さすは賤きものゆへ天より通達
 されは
 姿のさう銘のゆへ其情の深き
 慕ふしゆはるる後代の目々謝さ
 因か〜〜〜〜〜

蕉門執夏

題辭

故のぬ遺三亭と名り續山并結連珠一
 所奥御宇に所る選句集編突雪丸猿
 笑り此父小文於遺曲集その古集と
 馬馬の遺と乳〜宗房のゆ〜
 延集 天和 貞享 元禄と婦〜丸
 然〜と愚眼〜何〜ん〜
 今丑元井主の〜
 昔十三堂叟の〜
 遺 嗟と為〜

眼よりぬくは、
折る手余程よく之と柱と何れもこれ
誠々九牛の一毛に多寡莫し二乃おと叶い
奉るに、
五雨申す夏夏加
筆のぬきぬき 祝下空勝しとこらひぬ

一丁のぬきぬき謹書

凡例

- 一 當季同功任順題具見安
- 一 章解多有随十三堂史筆記既時止説
- 一 同袖記用捨
- 一 同諸家筆記用捨
- 一 無季兌句終卷 步徳
- 一 附録 古人 諸章
- 一 贈答 愚章

古新合而百四十余章

此の却る負き〜厚く辛止厚切しとてし〜

誰や〜 而事〜 誰や〜 次〜 誰や〜 の如

門の扉〜 扉と心子 好

旅の美を 衣冠平上 衣冠のあらん〜 或書〜 後〜 吹〜 白髪如〜 裳〜 下〜

〜 屋の御殿と

寂堂に〜 野の良也 庭毫

のわ〜 湯を 書し みる 好

甲の〜 夜や〜 乙の〜 庭と庭

併〜 しい〜

二の〜 も〜 や〜 ぶ〜 の〜 好

遠〜 沢〜 葎と 好は 好

えり〜 田〜 めれ〜 好は 好

好の〜 葉も 好は 好

元ハ凡而世ハ人情 同ハ〜 習ハ〜 行伴〜 凡雅〜 舟の月〜 や〜

誰人〜 著〜 好は 好

初〜 好は 好

法華〜 宇元公家質而 為董明詩書 元亨ノ秋書曰 天皇の心〜 需〜

蓮華

蓮華の意、蓮華和尚

蓮華の意、蓮華和尚

蓮華の意、蓮華和尚

蓮華の意、蓮華和尚

蓮華の意、蓮華和尚

蓮華の意、蓮華和尚

蓮華の意、蓮華和尚

蓮華の意、蓮華和尚

蓮華の意、蓮華和尚

蓮華の意、蓮華和尚

蓮華の意、蓮華和尚

蓮華の意、蓮華和尚

蓮華の意、蓮華和尚

蓮華の意、蓮華和尚

蓮華の意、蓮華和尚

蓮華の意、蓮華和尚

蓮華の意、蓮華和尚

蓮華の意、蓮華和尚

蓮華の意、蓮華和尚

蓮華の意、蓮華和尚

蓮華の意、蓮華和尚

蓮華の意、蓮華和尚

蓮華の意、蓮華和尚

蓮華の意、蓮華和尚

蓮華の意、蓮華和尚

蓮華の意、蓮華和尚

蓮華の意、蓮華和尚

蓮華の意、蓮華和尚

蓮華の意、蓮華和尚

蓮華の意、蓮華和尚

蓮華の意、蓮華和尚

蓮華の意、蓮華和尚

蓮華の意、蓮華和尚

後醍醐天皇
行學門院

蓮華の意、蓮華和尚

蓮華の意、蓮華和尚

蓮華の意、蓮華和尚

續連珠

采芳

歌うらふ心まじりてしるはな

ふらふれぬの碁味争文 好

似も押り秘花作や物と

いりりるる方 玉傳のね 好

里如もや 梅おぬせ牛の鞭

深きり糸の嵐の煙好

し州重なる 山河

新うま子 鶴子の名のしけ

うらけぬぬ 暮の御夜 好

新うま子
あやの川と河大津の
東海より行舟候
別れいづ道は
のあはれ種し有
ふらふ有 若ま
新けもつくと
いさや ぬい
風情し若まの 梅ゆと金糸の
之候けは 若まの 数と糸 ぬいし 佛まのし 知
三般の曲節し

結前生後より御有 知

し標し牛も知るといふ

あふののをまのまの 好

世より物と 一枚の好

かゝるものし 牛の好

世より
あや
新新景深林石過
一枚
けまのまのぬい
我のま 世の度れり
新しそし 此の上のま
りかゝるものし

るまの 梅く金糸の 好

同しと答へりまのの聲 好

河川のまのま

糸のまの 梅の好

雀の所し 好

論

論の

論の

論の

論の

論の

論の

論の

論の

論の

論の

論の

論の

論の

論の

論の

論の

論の

論の

論の

論の

論の

論の

論の

論の

論の

論の

論の

論の

論の

論の

論の

論の

論の

論の

論の

論の

論の

論の

論の

論の

陽をや
あけの紫胡原
北のしとつわ
甚るる吹雪
紫胡原の河
紫胡原の河
紫胡原の河
紫胡原の河
紫胡原の河
紫胡原の河

山さうり
あけのしとつわ
紫胡原の河
紫胡原の河
紫胡原の河
紫胡原の河

又六陽をいし石の上

柳 誓首 風 廻 隨 意

陽をや 紫胡原の河

蛇 了 了 了 了 了 了

草 一 片

陽をの 紫胡原の河

雪 河 山 代 の 橋

言 從 山

山さうりの 紫胡原の河

陽をの 紫胡原の河

陽をの 紫胡原の河
紫胡原の河
紫胡原の河
紫胡原の河
紫胡原の河
紫胡原の河

陽をの 紫胡原の河

脚 の 紫胡原の河

猫 の つる 紫胡原の河

一 片 の 紫胡原の河

又 六 陽 を い し 石 の 上

柳 誓首 風 廻 隨 意

陽をの 紫胡原の河

蛇 了 了 了 了 了 了

草 一 片

陽をの 紫胡原の河

陽をの 紫胡原の河
紫胡原の河
紫胡原の河
紫胡原の河
紫胡原の河
紫胡原の河

何れも多し下りぬいりていひのたのほのたふたふた
神傳の通りとていひのたのほのたふたふた
無かるは連しきりし
金と集

禊の至るのたのほの
のたのほのたのほの
増加のたのほのたのほの
西上人のたのほのたのほの
伊勢下向のたのほのたのほの
のたのほのたのほのたのほの

大神宮のたのほのたのほの
多利とたのほのたのほの
禊のたのほのたのほの
伊勢のたのほのたのほの
具言とたのほのたのほのたのほの

二月吉のたのほのたのほの
医のたのほのたのほの
初午のたのほのたのほの
天のたのほのたのほの

禊のたのほのたのほの
或人のたのほのたのほの
とたのほのたのほの
禊のたのほのたのほの
或人のたのほのたのほの
とたのほのたのほの

禊のたのほのたのほの
或人のたのほのたのほの
とたのほのたのほの
禊のたのほのたのほの
或人のたのほのたのほの
とたのほのたのほの

禊のたのほのたのほの
或人のたのほのたのほの
とたのほのたのほの
禊のたのほのたのほの
或人のたのほのたのほの
とたのほのたのほの

禊のたのほのたのほの
或人のたのほのたのほの
とたのほのたのほの
禊のたのほのたのほの
或人のたのほのたのほの
とたのほのたのほの

禊のたのほのたのほの
或人のたのほのたのほの
とたのほのたのほの
禊のたのほのたのほの
或人のたのほのたのほの
とたのほのたのほの

多岐の
西の尾を
鹿の角
二股
甲斐
西の尾を
鹿の角
二股
甲斐

鹿の角之二の角
二股
甲斐
鹿の角之二の角
二股
甲斐

お玉五ノ
皇の骨所
お玉五ノ

皇の骨所
お玉五ノ
皇の骨所
お玉五ノ

不登
燕尾
不登

不登
燕尾
不登
燕尾
不登
燕尾
不登
燕尾
不登
燕尾

櫻井... 古く... 石... 古く... 石...

... 石...

榊... 石...

同... 石...

... 石...

心... 石...

水口... 石...

... 石...

心... 石...

... 石...

... 石...

... 石...

古雅... 石...

... 石...

... 石...

... 石...

... 石...

... 石...

... 石...

... 石...

舟のしづか
あつた

舟のしづか
あつた

舟のしづか
あつた

舟のしづか
あつた

舟のしづか
あつた

舟のしづか
あつた

舟のしづか
あつた

舟のしづか
あつた

舟のしづか
あつた

舟のしづか
あつた

舟のしづか
あつた

舟のしづか
あつた

舟のしづか
あつた

舟のしづか
あつた

舟のしづか
あつた

舟のしづか
あつた

舟のしづか
あつた

舟のしづか
あつた

舟のしづか
あつた

舟のしづか
あつた

月... 之... 画

孔... 三... 画

則... 共... 行

又... 許... 画

軸... 知... 見

草... 油... 不... 之... 画

世... 月... 日... 画

之... 雨... 後... 画

生... 信... 画

十... 画

十... 画

十... 画

現... 之... 畫

脚... 畫

物... 皆... 自得

年... 画

十... 画

十... 画

年... 画

凡... 画

凡... 画

凡... 画

凡... 画

凡... 画

爰に三つと結のし 知る知不知 是後世に ぬとノホリ
あはれおのしとキ 兼りし 兼りし 兼りし 兼りし
う曲格い至 兼りし 兼りし 兼りし 兼りし
用ひこととむ のわらう 甚至 兼りし 兼りし
とと及もや 世と臨 兼りし 兼りし

兼りし 兼りし 兼りし 兼りし
兼りし 兼りし 兼りし 兼りし
兼りし 兼りし 兼りし 兼りし
兼りし 兼りし 兼りし 兼りし

兼りし 兼りし 兼りし 兼りし
兼りし 兼りし 兼りし 兼りし
兼りし 兼りし 兼りし 兼りし
兼りし 兼りし 兼りし 兼りし

兼りし 兼りし 兼りし 兼りし
兼りし 兼りし 兼りし 兼りし
兼りし 兼りし 兼りし 兼りし
兼りし 兼りし 兼りし 兼りし

兼りし 兼りし 兼りし 兼りし
兼りし 兼りし 兼りし 兼りし
兼りし 兼りし 兼りし 兼りし
兼りし 兼りし 兼りし 兼りし

兼りし 兼りし 兼りし 兼りし
兼りし 兼りし 兼りし 兼りし
兼りし 兼りし 兼りし 兼りし
兼りし 兼りし 兼りし 兼りし

兼りし 兼りし 兼りし 兼りし
兼りし 兼りし 兼りし 兼りし
兼りし 兼りし 兼りし 兼りし
兼りし 兼りし 兼りし 兼りし

兼りし 兼りし 兼りし 兼りし
兼りし 兼りし 兼りし 兼りし
兼りし 兼りし 兼りし 兼りし
兼りし 兼りし 兼りし 兼りし

兼りし 兼りし 兼りし 兼りし
兼りし 兼りし 兼りし 兼りし
兼りし 兼りし 兼りし 兼りし
兼りし 兼りし 兼りし 兼りし

兼りし

兼りし

兼りし

兼りし

兼りし

兼りし

兼りし

月の杯和靖行

酒一字以

温如春色乘如秋

一楹博前自取研

げまやのらのらのらの

りとゆときときと

るり月のと

ゆののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

酒ののののの

月ののののの

行ののののの

げまやのらのらの

りとゆときときと

るり月のと

ゆののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

當国各所町の店に仕着る良
ぬはしむるの願はけしむるのと
よはしむるの願はけしむるのと

一部のののの

古ののののの

行ののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りの

りの

りの

りの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

りののののの

四方より吹入る
白より来る
おのまゝの

西 洛 堂

四方より吹入る
月の後とある
尾の人分は
あふ一程
川へ

の

柳さくも
浦らり
吹の

吹の

新

水

劉向別録
魯色克有秋有
虞公允色者
拂新梁上
孔子魯太子
孔夫子魯太子
孔子魯太子

孔子魯太子
孔子魯太子
孔子魯太子

鳥丸光廣郷
乃守と
月わらむ
つまらぬ
め

集
新
布

新

指

指

不

不

名

子

酒

有才不有
子
有才不有
子
有才不有

酒の

檀林作

柱石しちう御代ごだいの蛤かき 六分むく

内裏うちら雛人形ひなにんがた天皇てんかうの頭かぶ

田いり螺まがの首くびもも延のきん 五分ごぶ

袖そでももしし御代ごだいのかき 五分ごぶ

和わとと思おもひひももしし御代ごだいのかき 五分ごぶ

伏見ふし見西片にしへ予よ任にん口くち入い

衣い袖そでのかき 五分ごぶ

十じゆ併へいのかき 五分ごぶ

船ふね舳しほもも御代ごだいのかき 五分ごぶ

物もののかき 五分ごぶ

御代ごだいのかき 五分ごぶ

布ぬい衣いのかき 五分ごぶ

地ちのかき 五分ごぶ

山やま吹ふのかき 五分ごぶ

河かのかき 五分ごぶ

画え 五ご分ぶ

山やま吹ふのかき 五分ごぶ

橋はしのかき 五分ごぶ

山やま吹ふのかき 五分ごぶ

銚しゆのかき 五分ごぶ

西川にしがわ

山やま吹ふのかき 五分ごぶ

山やま吹ふのかき 五分ごぶ

山吹やまぶのかき 五分ごぶ

つねに
身はつとくしに
家もつとくしに
あつとくしに
あつとくしに

つねに
身はつとくしに
家もつとくしに
あつとくしに
あつとくしに

あつとくしに
あつとくしに
あつとくしに
あつとくしに

あつとくしに
あつとくしに
あつとくしに
あつとくしに

あつとくしに
あつとくしに
あつとくしに
あつとくしに

あつとくしに
あつとくしに
あつとくしに
あつとくしに

あつとくしに
あつとくしに
あつとくしに
あつとくしに

あつとくしに
あつとくしに
あつとくしに
あつとくしに

芭蕉翁得

胡蝶窠空弄午影空
蒲團眠覺步溪東
各鳩十底總飛盡
黃鳥獨啼深樹中

芭蕉翁得

谷改作

多代多樂句
石有月影句
去年
人年
桐
一
忘
法
○
平
香
中

